



ジュニア学芸員が活躍中！ 町の文化財再現プロジェクト

8月4日に日本マイクロソフト品川本社で馬拉カ2018（教育版）マイクラフト学習活動成果発表会が開催され、歴史探訪館で活動しているジュニア学芸員（那須中央生徒4名）が、町の重要文化財を再現した活動成果を発表しました。（写真右下）また、8月27日にはその成果を教育長に報告しました。（写真左上）

ジュニア学芸員は、学校教育課に配置されているプログラミング教育推進スーパーバイザーの支援を受けながら、教育版マイクラフト（プログラミングソフト）を活用して歴史探訪館の陣屋裏門や三森家住宅（写真上）などの文化財再現プロジェクトを行っています。歴史探訪館の協力のもと、実際に現地に足を運びながら文化財を調査し、忠実に再現。これらをスマートフォン等でも閲覧できるように活用し、幅広い展示方法を目指しています。町教育委員会では、文化財の再現等を通じて町の歴史に触れ、町の情報発信を中学生が自律的に行える環境づくりを進めていきます。今後のジュニア学芸員の活動にご注目ください。

馬拉カ2018 Webサイト
<https://sway.office.com/qfvt-Km3KZx5hujYf>

▼問合せ 学校教育課
 ☎ 026922



▶ジュニア学芸員とプログラミング教育推進スーパーバイザーの星野さん（写真中央）



▶右から歴史探訪館・岡田館長、2年星野世理奈さん、2年鈴木千穂さん、2年坂本健一さん、3年藤田巨さん、平久井教育長

地域おこし協力隊の
活動レポート
 Vol. 33
 石田 多朗



自宅で編曲・作曲に取り組む石田隊員

みなさま、こんにちは。協力隊に着任してからは音楽講座を開くなど、さまざまな音楽に関する活動に取り組んでいます。最近では町に関係する歌や音楽の編曲・作曲も行うようになりました。

着任当初から民謡に興味があり、音楽講座では度々テーマとして取り上げています。それに伴い調査を進めてみると、町には少なくとも100曲以上の民謡があったことが分かりました。田植え・湯のみなど労働に伴う唄、お祭り、出産、子守、わらべ唄、念仏、餅つき・生活のあらゆるところで、自分たちの唄を唄っていたようです。それがいつの間にかほとんどが忘れ去られたかかります。どうしてそうなったのでしょうか。理由の一つを挙げてみます。

商業的な音楽の世界では、人や作品が有名で、影響力があるほど素晴らしいと考えられます。それに対し民謡は、匿名性があり、地域に根つき、小さなコミュニティの中で楽しみ、そして広げようという意思がそもそもないところに良さがあります。

そのため、「有名＝素晴らしい」という発想だけの世界では生き残りにくいのです。他にも、民謡は商業的な音楽とは性質が異なる点が多々あります。同じ音楽ではありませんが、民謡とその他の音楽は、別の価値観で捉える必要があります。

ここ50年ほどで一気に忘れ去られている民謡ですが、それ以前の長期間、脈々と唄い継がれてきたのはどうしてなのか。それは、人々が唄うこと自体やその時その場所をととても楽しんでいたのでしょう。さまざまな方に民謡について話を伺うと、みなさん楽しそうに知っている唄を唄ってくださいたり、思い出を話してくださいたりします。沖縄などが好例ですが、地元の人が地元の唄を愛しているというのは、町にとっても、また他の地域からみても良いものだと思います。

難しい課題ではありますが、みなさまが楽しみながら、自然と民謡が息を吹き返していく、そんな道はないだろうか日々考えています。